

いきいきレク支援レポート

野田善郎先生とけん玉

けん玉協会指導員 大下 英明

私は今、66歳になりますが、子どもの頃にはよくけん玉で遊んだものでした。会社を定年退職してからまだ日も浅かったある日、私の地元の伊予市で、あるイベントが開かれました。その時、その場で私は野田先生に出会いました。先生はけん玉協会の愛媛県支部長をしておられ、私は先生の勧誘でけん玉協会に入会しました。野田先生のけん玉の教え方はとてもお上手で、みんなを夢中にさせていくのを私は今でもよく思い出します。入会后、私は学校やさまざまなイベントなどにボランティアとして参加するようになりました。そこで野田先生とご一緒に楽しい時を過ごしました。ところが昨年1月に突然に先生が亡くなられたと聞いてとても驚きました。先生からもっともっと学びたかったのにと残念で淋しく思いました。私は今、先生から学んだ多くのことを大切に、感謝しながら、けん玉の楽しさと素晴らしさを

きるだけ多くの人々に伝えていきいたいと思っています。

2年ほど前、私はある病院へお見舞いに行った時、廊下でけん玉をしていました。そこへ車椅子で75才ぐらいの男の方が通りかかり、けん玉を貸してほしいという仕草をされたので、私がけん玉を手渡すととてもうれしそうに遊ばれました。すると車椅子を押しておられた奥様が、「私のことも誰だか分らないのに、60年も前に遊んだけん玉を思い出してうれしそうに遊んでいるのを見ていると、まだすべてを忘れていないわけではないのですね。本当にいいものを見せていただきました。」と言って涙を流して喜んでくださいました。私は奥様の言葉を聞いて、私のけん玉がお役に立ったのかとうれしくなりました。そしてけん玉を続けていて良かったと実感しました。これからも健康でけん玉を通して人とのつながりを大切にしながら、みんなと楽しんでいきたいと思っています。

